

福祉の道に向かって 六郷高校福祉科第11期生宣誓式

5月27日、六郷高校（北嶋淑子校長）福祉科第11期生宣誓式が同校体育館で行われました。同校では、昨年度に卒業した同科第9期生の介護福祉士国家試験合格率が、同科開設以来最高の100%を達成するなど、全国平均の64.6%を大きく上回る結果を残しています。

式では、介護実習服に身を包んだ2年生26名を代表して、小田嶋穂波さんが「一人ひとりの心豊かな生活を支える介護福祉の専門職を目指し、知識と技術の研さんに励みます」と力強く誓いの言葉を述べました。続く北嶋校長の式辞では「皆さんの優しい言葉や差し伸べる温かい手が、介護を必要とする人に生きる力と幸せを与える。今後の学習を通じて、広く社会から信頼される介護福祉士を目指して精進してほしい」と期待を込めました。



思いやりの気持ちを込めて 町内小学校で「人権の花」の苗植え

6月3日から6月18日にかけて、人権擁護委員の皆さんが町内小学校を訪問して児童たちと一緒にペゴニアの苗などを植えました。この活動は、花を育てることで協力・感謝する大切さや命を敬う心を育んでもらおうと、「人権の花」運動の一環として行われています。

苗を手にした児童たちは一つひとつ丁寧に植え、大きく育つように願いを込めて水をあげていました。



励まし、助け合う福祉社会を目指して 第10回美郷町身体障害者福祉大会

6月4日、美郷町中央ふれあい館で第10回美郷町身体障害者福祉大会が行われ、町身体障害者協会の発展や福祉活動に貢献した会員3名に、町身体障害者協会の村田薫会長より表彰状が贈られました。また、自立と社会活動への参加意欲を高め、障害者福祉のいっそうの充実を目指して努力することを盛り込んだ大会宣言が承認されたほか、六郷史談会の高橋悦央会長による講演や、アトラクションを觀賞しながらの交流会が行われました。



新緑の庭園を眺めながら 坂本東嶽邸 初夏の宴^{うたげ}

6月7日から6月8日にかけて、合併10周年記念事業の一環として「坂本東嶽邸 初夏の宴」が開催されました。7日の前夜祭に行われたジャズコンサートでは、アクア美郷ジャズセッションが出演し、町指定文化財の坂本東嶽邸の庭園にジャズやポップスなどの美しい音色を響かせました。

8日には千畑茶道同好会（高橋かよ子会長）の協力によるお茶会、美郷民話の会（煙山惇会長）による昔語りが行われました。参加者たちは、新緑を眺めながら抹茶を味わったり、耳を澄ませて和風邸宅で昔語りの世界に浸るなど、初夏の趣を楽しんでいました。





第2回受講生も募集中 水環境マイスター養成講座

6月14日、美郷町中央ふれあい館で本年度第1回目の水環境マイスター養成講座が行われ、23名が参加しました。

講師を務めたのは秋田大学の網田和宏助教。網田助教は、現代農業で多用する化学肥料が水環境に与える影響などに触れ、「石油やガスなどの資源に比べて、水資源は循環する時間が短く、自分たちの手で汚すことも改善することもできる。意図しない加害者とならないよう、地域の水環境について学ぶことは大切」と呼び掛けました。さらに、自身が研究を進めている六郷湧水群の水温や水質等の調査結果を紹介しました。



第2回水環境マイスター養成講座の受講生募集中

日 時 ● 7月12日(土) 午後1時30分～午後4時30分
会 場 ● 美郷町中央ふれあい館
テ マ ● 体にいい水ってどんな水？

申込方法 ● 7月9日(木)まで電話でお申し込みください。
申 ・ 問 ● 町住民生活課 環境安全班 ☎0187(84)4903

時間感覚と信念

美郷町長 松田知己

風



坂本東嶽邸 初夏の宴で「あいさつ」を述べる松田町長

「あゝ早い」。大体は年越しに実感する時間感覚が、最近は何月替わりでも感じていきます。それだけ対処するべき業務が増加しているのか、あるいはそれを処理する業務能力が低下しているのか、はたまた年齢相応の時間感覚というものなのか分りませんが、本稿に向き合ってみて、「6月も早かったな」と実感しているところです。みなさんはいかがだったでしょうか。一方、自己弁護になるかも知

れませんが、こうした時間感覚、実は大切なことではないかとも思っております。それは、この感覚が時間に対する意識の有無の裏返しだからです。意識のないところに実感は存在しません。また、そうした実感があるからこそ「想い」が発生するのではないのでしょうか。

さて、そうした「早い」時間感覚を意識しながら、町では先月、今年度における大きな案件に着手しました。一つは、今年度が最終年度的美郷町総合計画の総括と次期計画の策定。無作為抽出させていただいた皆様にアンケート調査を実施いたします。項目が多くて回答が大変と思えますが、今後の町づくりに影響するアンケートです。どうかご回答をお願いいたします。も

う一つは、合併自治体の共通課題の一つ、財政問題への対応です。美郷町は来年度から5カ年、国からのお金が漸減します。10億円を超える減額見込みですので半端な額ではありません。そこで、庁内に検討チームを設置して、対応の真剣な議論に入りました。毎年テーマを定め、その検討結果は翌年度の予算編成に反映させる予定です。この案件、ともに時間感覚が必須です。

最近、町外の方に「美郷町はよく新聞載るね。がんばってるな」と言われます。美郷町に対する評価として率直に嬉しく感じますが、その取り組みは言うまでもなく、通常業務の着実な展開が下地にあつてのこと。「家は目立つ2階よりも土台と1階が大切。(まれにミスもありますが)目立たない部分こそちゃんとやる」というのが私の信念です。先月着手の案件もその範疇です。今後も時間感覚と信念を大切に、難問にぶつかっていくつもりです。